



2022年12月期 第1四半期 決算説明会

井関農機株式会社

2022年5月13日

1. 2022年12月期第1四半期 業績の概要
2. 国内外市場動向
3. 2022年12月期 業績予想
4. トピックス



食と農と大地の
ソリューションカンパニー

1. 2022年12月期第1四半期 業績の概要



ポイント



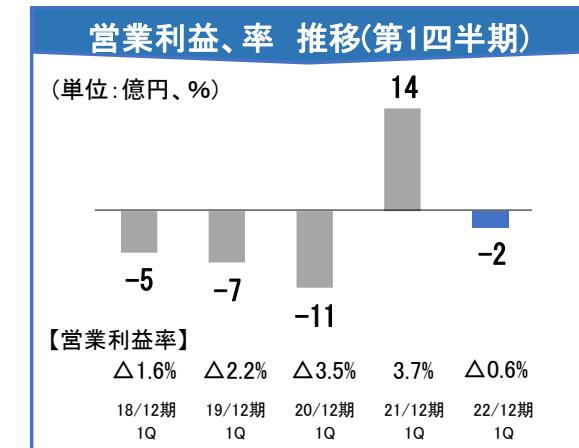
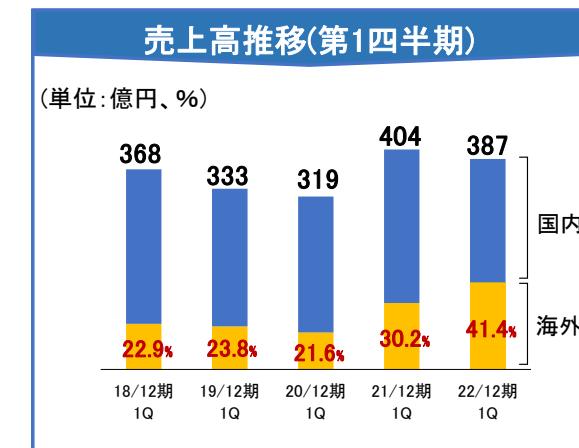
<第1四半期業績>

海外好調、国内は補助金反動・米価下落影響で減

国内 : 前年同期にあった経営継続補助金などに伴う需要喚起の反動
米価下落による購買意欲減退

海外 : 全地域で增收
北米・欧州でライフスタイルの変化に伴い好調

収益 : 減収による売上総利益の減少
原材料価格高騰による収益圧迫
第1四半期は不需要期のため例年赤字の中、経常利益以下黒字維持



<通期業績予想>

当初予想から変更なし

市場環境及び当社事業環境(22/12期第1四半期)



【凡例】 ✓ = 市場環境 ➤ = 当社事業環境

市場環境と当社事業環境

✓ 新型コロナウイルス感染症の拡大継続

<全体>	➤ サプライチェーンの混乱(コンテナ不足、生産用部品調達遅れ) ➤ 原材料価格高騰
<国内>	➤ 展示会中止など営業活動に影響 ➤ 前年同期にあった経営継続補助金などに伴う需要喚起の反動
<海外>	➤ 北米、欧州におけるライフスタイルの変化に伴う需要増

✓ 国内米価下落(令和2年産米3月:14,740円/60kg⇒令和3年産米3月:12,777円/60kg) ※1

<国内>	➤ 農家の購買意欲減退
------	-------------

✓ ロシアのウクライナへの侵攻

<全体>	➤ 販売面:この地域での営業活動を行っていないため直接的な影響はない ➤ 仕入面:サプライチェーンの混乱、原材料価格の更なる高騰懸念
------	---

✓ 円安の進行

<全体>	➤ 営業利益での影響は軽微
------	---------------

※1:相対取引価格(全銘柄平均) 出所:農林水産省 米に関するマンスリーレポート

連結業績の概要



(2022年1月1日～2022年3月31日)

(単位:億円、%)

	18/12期 1Q実績	19/12期 1Q実績	20/12期 1Q実績	21/12期 1Q実績	22/12期 1Q実績	前年 同期比
売上高	368	333	319	404	387	△ 17
(国内)	284	253	250	282	227	△ 55
(海外)	84	79	68	122	160	+ 38
営業利益	△5	△7	△11	14	△2	△ 17
営業利益率	△1.6%	△2.2%	△3.5%	3.7%	△0.6%	△ 4.3%
経常利益	△9	△11	△12	21	0	△ 20
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△3	△4	△4	19	2	△ 16
為替平均 レート	米ドル ユーロ	110.1 134.3	110.5 126.3	109.6 120.8	104.4 126.8	114.8 130.1
						+10.4 +3.3

国内売上高



前年同期比
▲55億円

経営継続補助金などに伴う需要喚起の反動や米価下落による購買意欲減退
メンテナンス収入は維持

(単位:億円)		18/12期 1Q実績	19/12期 1Q実績	20/12期 1Q実績	21/12期 1Q実績	22/12期 1Q実績	前年 同期比
農機関連	整地機	72	67	57	66	58	△ 7
	栽培機	21	22	17	25	16	△ 8
	収穫調製機	28	27	20	24	20	△ 3
	小計	122	117	95	116	96	△ 19
	作業機	48	48	41	59	40	△ 19
	部品	26	27	29	30	29	△ 0
	修理収入	9	10	11	11	11	△ 0
	小計	85	86	82	102	81	△ 20
	計	207	204	178	218	177	△ 40
	施設工事	27	5	26	14	7	△ 7
その他農業関連		48	44	46	50	42	△ 7
合計		284	253	250	282	227	△ 55

主な増減要因(前年同期比)

- ✓ 農機製品・作業機は経営継続補助金などに伴う需要喚起の反動に加え、米価下落による購買意欲減退により減収
- ✓ 製品、作業機の減収はあるも、部品、修理収入などのメンテナンス収入は前年同期を維持

海外売上高



前年同期比
+38億円

市場ニーズを捉えた販売推進により全地域において増収

(単位:億円)	18/12期 1Q実績	19/12期 1Q実績	20/12期 1Q実績	21/12期 1Q実績	22/12期 1Q実績	前年 同期比
北米	26	28	23	39	46	+ 6
欧州	28	29	24	59	78	+ 19
アジア	27	20	20	22	35	+ 12
その他	0	0	0	0	1	+ 0
連結売上高 合計	84	79	68	122	160	+ 38

主な増減要因(前年同期比)

- ✓ 北米 : ライフスタイルの変化に伴う好調なコンパクトトラクタ市場を背景に、AGCO社による積極的な販売推進が奏功し増収
- ✓ 欧州 : ライフスタイルの変化に伴うコンシューマー向けを中心とした好調な販売に加え、景観整備向け需要の回復に伴うプロ向け販売も増加し増収
- ✓ アジア : 韓国排出ガス5次規制に伴う上期期限での出荷集中による増収

営業利益



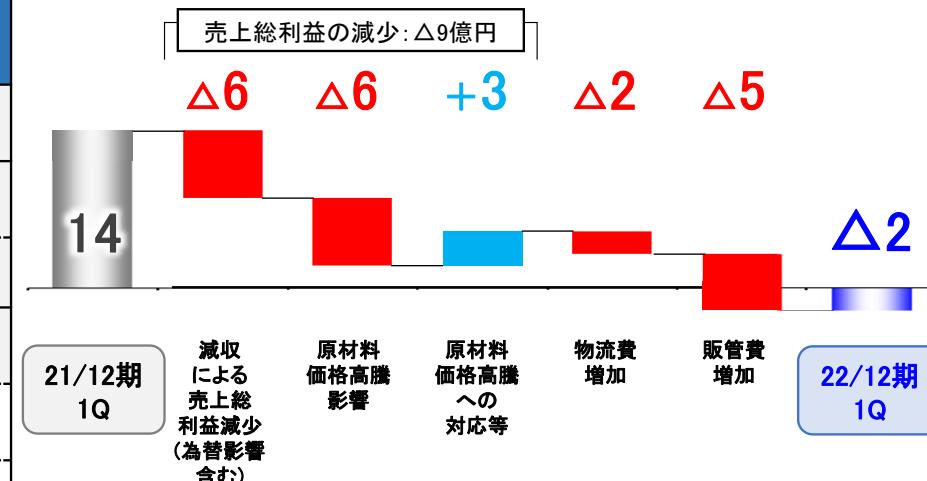
前年同期比
▲17 億円

減収に加え原材料価格高騰影響により売上総利益が減少
物流費率の悪化などにより販管費増加

(単位:億円、%)

	18/12期 1Q実績	19/12期 1Q実績	20/12期 1Q実績	21/12期 1Q実績	22/12期 1Q実績	前年 同期比
売上高	368	333	319	404	387	△ 17
売上総利益	99	96	90	117	108	△ 9
売上総利益率	27.0%	28.9%	28.2%	29.1%	27.9%	△ 1.2%
販管費	105	103	101	103	110	+ 7
人件費	62	61	60	60	64	+ 3
その他経費	43	42	40	42	46	+ 3
営業利益	△5	△7	△11	14	△2	△ 17
営業利益率	△1.6%	△2.2%	△3.5%	3.7%	△0.6%	△ 4.3%

【営業利益増減内訳(前年同期比)】



【為替影響(億円)】

売上	原価	販管費	営業利益
+5	△6	△0	△1

経常利益、四半期純利益



経常利益
前年同期比
▲20億円

前年同期にあった一過性の営業外収益の剥落はあるも
経常利益では黒字を維持

(単位:億円)	18/12期 1Q実績	19/12期 1Q実績	20/12期 1Q実績	21/12期 1Q実績	22/12期 1Q実績	前年 同期比
営業利益	△5	△7	△11	14	△2	△ 17
金融収支	△1	△1	△1	△1	△1	+ 0
その他営業外損益	△1	△1	0	8	4	△ 3
経常利益	△9	△11	△12	21	0	△ 20
特別利益	0	0	1	0	0	△ 0
特別損失	0	0	0	0	0	+ 0
税前利益	△9	△11	△11	20	0	△ 20
税、税調整額	5	7	7	△1	2	+ 4
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△3	△4	△4	19	2	△ 16

営業外損益増減内訳(前年同期比)
受取和解金の剥落等 △4億円

バランスシート



前年同期末比

- ・棚卸資産は製品在庫の圧縮は進むも、サプライチェーン混乱影響で工場仕掛品は増加
- ・有利子負債の圧縮は進む

(単位:億円)	21/3月末	22/3月末	増減		21/3月末	22/3月末	増減
現預金	90	104	+ 13	仕入債務	401	414	+ 13
売上債権	289	301	+ 11	有利子負債	712	679	△ 33
棚卸資産 (商品及び製品)	534	546	+ 12	(借入金)	(632)	(608)	(△24)
(仕掛け品)	(458)	(451)	(△7)	その他の負債	176	200	+ 24
その他流動資産	45	35	△ 10				
(短期貸付金)	(16)	(0)	(△16)				
流動資産計	961	987	+ 26	負債計	1,290	1,294	+ 4
有形固定資産	858	846	△ 11	純資産	648	662	+ 13
無形固定資産	20	23	+ 2	(利益剰余金)	(164)	(173)	(+8)
投資その他資産	98	98	△ 0				
固定資産計	978	968	△ 9				
資産合計	1,939	1,956	+ 17	負債・純資産計	1,939	1,956	+ 17

2. 国内外市場の動向



国内農機市場の動向



国内農機需要

経営継続補助金などに伴う需要喚起の反動や米価下落による購買意欲減退などにより
消費増税後の反動からの回復ペースは緩やか

■ 農機需要[業界出荷](主要9機種・移動年計)



※主要9機種:トラクター、コンバイン、田植機、耕耘機、乾燥機、粉碎機、バインダー、ハーベスター、トリートメント

出所:日農工出荷統計より当社推計

1-3月の状況

1. 国内販売会社実売

農機製品 金額(2022年/1-3月)

- 実売：前年同期比 82%、前々年同期比 102%
- 契約：前年同期比 86%、前々年同期比 108%

※生産遅延による一部受注残も発生

2. 販売・サービス活動

- ・1~2月はコロナ影響によりイベントは概ね中止。
3月以降は一部で規模を縮小し実施。
- ・WEB LIVE実演会を開催(3/25)。
YouTubeでの同時配信などオンラインを活用。

今後展開等

- ・4月以降は当用期(春作業)対応及びトラクタや田植機の実演等を推進中。
→実演の様子を「Amoni」で配信

・スマート農機の推進

スマート農業実証事業等対象機種の推進強化

- ✓ 有人監視型ロボット農機
(トラクタ、田植機)
- ✓ 直進アシストトラクタ
- ✓ 直進・旋回アシスト田植機
- ✓ 可変施肥田植機



有人監視型ロボット田植機

- ・原材料価格高騰を受け、当社農機製品価格改定を実施
✓ 価格改定:2022年6月～

海外市场の動向（北米、欧州）



北 米

1. 市場の動向

(単位:千台、%)

区分(PTO馬力)	1~3月累計			
	2020年	2021年	2022年	増減率
40HP以下(コンパクト)	29	47	43	90%
40~100HP(ユーティリティ)	12	16	15	95%
100HP以上	4	5	6	113%

(出所:AEM統計)

2. AGCO社(OEM先)の状況

実売台数(2022年/1~3月)

➤ コンパクト :前年同期比 88%



3. 当社の出荷・受注状況

出荷・受注(2022年/1~6月) :前年同期比 187% (前期受注残含む)

※海上輸送用コンテナ不足等による未出荷等発生

欧 州

1. 市場の動向

- ・ライフスタイルの変化により、コンシューマー向け需要は引き続き堅調
- ・新型コロナウイルス感染に関する各国での政府規制緩和に伴い、プロ向け需要もコロナ禍前まで回復

2. 現地の実売状況

実売台数(2022年/1~3月)

➤ 現地販売代理店 :前年同期比 97%



3. 当社の出荷・受注状況

出荷・受注(2022年/1~6月)

:前年同期比 大幅増(前期受注残含む)

※海上輸送用コンテナ不足等による未出荷等発生

タイ

1. 市場の動向

畑作を中心に前年並みの需要で推移

2. 現地販売会社[IST Farm Machinery]の状況

現地実売台数(2022年/1-3月)

➤ アセアン戦略トラクタ：前年同期比 108%

3. 当社の出荷・受注状況

出荷・受注(2022年/1-6月)

：前年同期比 145%

インドネシア・ミャンマー

1. 市場の動向

<インドネシア> 政府入札予算はコロナ感染防止対策に流用されるなど縮小傾向

<ミャンマー> クーデターによる国内情勢混乱から販売店の営業活動に影響

2. 当社の受注状況 (2022年/1-6月)

<インドネシア> 入札予算減少の中、受注獲得

<ミャンマー> クーデターによる混乱の長期化により営業活動は停滞

3. PT.井関インドネシア(生産子会社)の状況

(単位:台、億円)	2021年		2022年	
	実績	1Q実績	計画	1Q実績
生産台数	15,680	4,300	17,170	3,500
営業利益	3	1	3	0

海外市场の動向（アジア）



中 国

1. 市場の動向

◆中央政府補助金

(単位:億元)

2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
237	186	186	180	170	190	未発表

◆中国 農機業界の動向：機種別 前年伸長率(台数) (単位:%)

	2020/1～3月	2021/1～3月	2022/1～3月
田植機(乗用)	121.1%	217.9%	86.2%
コンバイン(汎用、自脱)	46.2%	118.5%	206.9%
トラクタ(大中型)	85.5%	165.9%	136.1%

(出所)中国農業機械工業協会

2. 東風井関の状況(2022年/1-3月、現地実売台数)

- 乗用田植機 前年同期比 76%
- トラクタ、コンバイン // 115%

韓 国・台 湾

1. 市場の動向

<韓国> 農業人口の減少や高齢化が進む中、大規模化に伴う大型・高性能農機需要の高まり

<台湾> 補助金反動減で、トラクタ、コンバインが大幅減

2. 当社の出荷・受注状況

(2022年/1-6月)

<韓国> 田植機の増加に加え、トラクタ・コンバインの排出ガス5次規制に伴う上期期限での出荷集中による増加

<台湾> 前年同期比減。展示会の実施などにより推進

3. 2022年12月期 業績予想



- ✓国内外ともに新型コロナウイルス感染症は依然残るもの、オミクロン型変異株は上期中には収束に向かい、社会活動や経済活動も緩やかに回復基調(当初前提通り)
- ✓原材料価格高騰やサプライチェーン混乱の継続、ロシアのウクライナ侵攻や為替円安進行



**先行きの不透明さは残るもの、
業績予想修正なし**

2022年12月期 連結業績予想



連結
業績予想

当初予想から修正なし
前期比増収、営業増益、期末配当30円

(単位: 億円、%)	18/12期 実績	19/12期 実績	20/12期 実績	21/12期 実績	※22/12期 予想	前期比
売上高	1,559	1,498	1,493	1,581	1,665	+ 83
(国内)	1,228	1,177	1,159	1,173	1,190	+ 16
(海外)	331	321	333	407	475	+ 67
営業利益	31	27	20	41	47	+ 5
営業利益率	2.0%	1.8%	1.4%	2.6%	2.8%	+ 0.2%
経常利益	26	11	17	46	46	△ 0
親会社株主に帰属する 当期純利益	10	7	△56	31	31	△ 0
為替平均レート (円)	米ドル	110.2	109.3	107.0	110.0	+ 1.0
	ユーロ	130.9	121.6	121.5	130.0	+ 0.2
期末配当(円)	30	30	0	30	30	± 0

※22/12期予想: 2022年2月15日公表予想

4. トピックス



■DBJ環境格付融資－16回連續最高ランクの格付取得－

株式会社日本政策投資銀行(DBJ)より、
最高ランクの格付「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」と評価



■「健康経営優良法人2022(大規模法人部門)」に認定

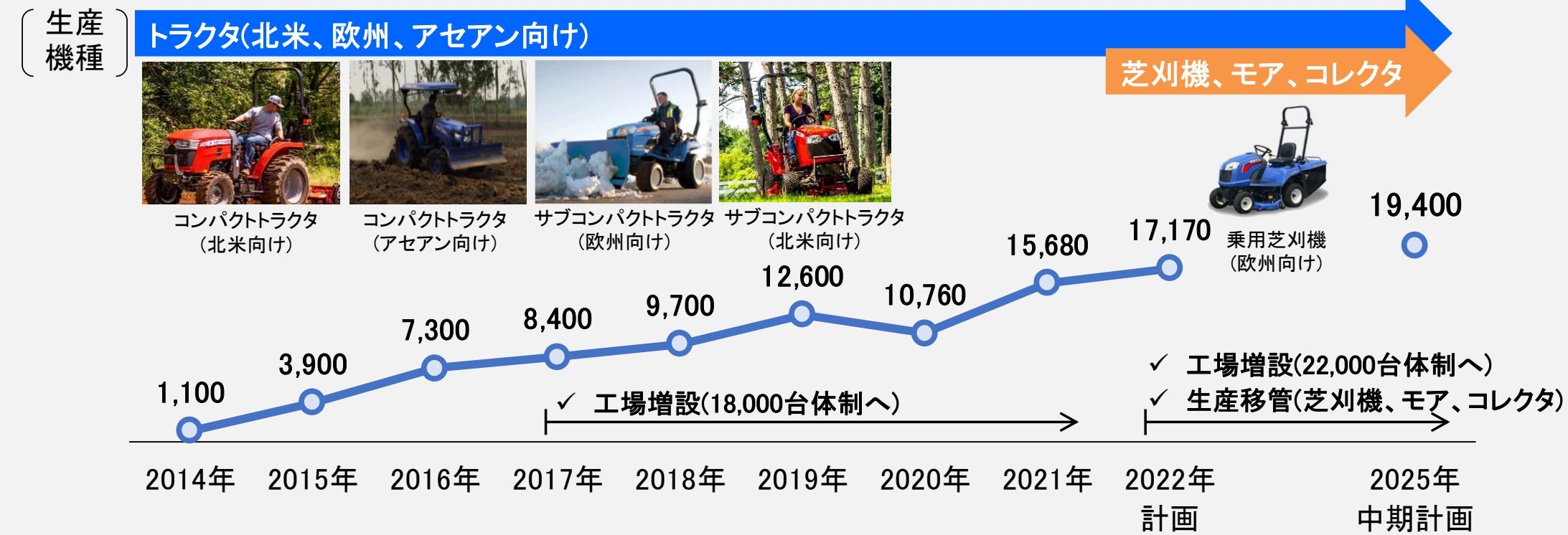
「三つの健康(からだ・こころ・くらしの健康)」を柱とした施策の実施により、
従業員一人ひとりの健康の維持増進を図り、エンゲージメントの向上並びに
当グループの持続的な成長を実現していく



※各詳細につきましては、井関農機HPの新着情報をご覧ください。<https://www.iseki.co.jp/news/>

■PT.井関インドネシア(生産子会社)
増産体制の構築(工場増設、日本からの生産移管)

【生産台数推移】



将来の見通しに関する記述についての注意



- ・本資料は、情報提供を目的として作成しており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
 - ・本資料は、現時点での入手可能な情報に基づき、当社が作成したものですが、潜在的リスクや不確実性が含まれており、経済情勢や市場動向の変化等により実際の結果と必ずしも一致するものではありません。
 - ・ご利用に際しては、ご自身の判断でお願い致します。
- 本資料に掲載している業績予想や目標数値に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。



未来の
ために、
いま選ぼう。

井関グループは、
環境省による地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を
促す国民運動である【COOL CHOICE】の取組みに賛同しています。
「賢い選択」の提案として「工コ商品」など
環境に配慮した商品の開発普及を推進しています。

